

平成29年度に取り組む主な地方創生関係事業

No.	事業名	主な取組内容	総合戦略掲載部
1	松伏町「みんなの良（居）場所」づくりプロジェクト	赤岩地区公民館を改修し、子どもから高齢者まであらゆる世代が居心地が良いと思える空間「良場所」を創出する。	今回諮問事業
2	新市街地整備促進事業	平成30年度産業団地造成の事業化を目指し、用地買収の事前交渉、農林調整等を行う。	基本目標1、2及び4、土地利用に関する重点施策
3	地域公共交通資源と「道の駅」の制度を活用した公共交通強化事業	平成27年度及び平成28年度調査結果を踏まえ、庁内方針を決定するとともに、基本構想策定のための調査を行う。	基本目標2及び4、土地利用に関する重点施策
4	北部拠点活性化事業	平成27年度から平成29年度にかけて農村トレーニングセンターや周辺道路、トイレを改修。平成28年度から併設する老人福祉センターを北部サービスセンターとし、住民票等の発行サービスを開始 本年度中にハード整備が終了することから、多様なソフト事業の実施に向けた庁内調整を行う。	基本目標3及び4、土地利用に関する重点施策
5	シティプロモーション戦略策定事業	本資料2ページ参照	今後5年間で取り組むべき課題と基本理念(1)④
6	みんなプロデュース「まつぶし逸品」開発事業	本資料3ページ参照	基本目標1及び2

松伏町シティプロモーション戦略策定事業資料

1 事業名称

松伏町シティプロモーション戦略策定事業

2 事業期間

平成29年11月30日までに、シティプロモーション戦略を策定します。

平成30年3月31日までに実行可能な戦略が策定された場合、一部を先行実施します。

3 事業概要

全国的に人口減少時代を迎え、人口減少は多くの市町村が抱える課題となっています。松伏町では、少しでも人口減少に歯止めをかけ、定住化を促進したいと考えています。

松伏町の人口減少の原因のひとつに認知度の低さがあります。

シティプロモーションは、魅力的な施策実施や地域の資源を効率的にPRするなどを複合的に行うことが効果的であると考えられますが、まずは認知度の向上のため、現在ある松伏町の魅力を伝えるために発信すべき内容と効率的な情報発信手段に主眼を置いて戦略を策定したいと考えています。

4 策定委員会の設置

松伏町シティプロモーション戦略策定委員

(体制：概ね入庁5年目以内の職員及び大正大学学生2名、埼玉新聞社1名の合計14名)

みんなでプロデュース「まつぶし逸品」開発事業資料

1 事業名称

みんなでプロデュース「まつぶし逸品」開発事業

2 事業期間

平成30年3月31日までに、パッケージを含めた「まつぶし逸品」を開発します。

3 事業概要

産（町商工会、町内の事業者）、官（町）、学（大正大学）、農（町内農業者）、言（埼玉新聞社）が連携する「まつぶし逸品開発委員会」を立ち上げ、松伏町の地域資源（米・野菜）を活用した「まつぶし逸品」を開発し、事業を通して町外へ松伏町の魅力をPRしていきます。

4 開発委員会の設置

まつぶし逸品開発委員会委員

（体制：産（町商工会、町内の事業者）、官（町）、学（大正大学2名）、農（町内農業者）、言（埼玉新聞社1名）の合計8名の委嘱）

平成29年7月14日
埼玉新聞

特産品開発事業で 委員8人に委嘱書

松伏町

地域資源を活用した特産品の開発を通じて町の魅力を発信しようと、松伏町は地元産業界や学生、メディアなどと協働で、「まっぶし逸品開発事業」に新たに着手。鈴木勝町長が12日、大正大学地域創生学部 학생ら委員8人に委嘱書を手渡した。

産(商工会)、学(大学生など)、官(町)、農(町内農業者)、言(地元マスメディア)で構成する同委員会です。試作品を開発。県ふるさと創造資金補助事業を活用し、町内外のイベントで集めた感想を分析しながら味などの改良を重ね、本年度内に商品化する。

同時に、町の魅力的な施策や効果的な情報発信について検討する「松伏町シティプロモーション戦略策定事業」も

発足。入庁5年以内の若手職員や学生ら委員14人に委嘱書が手渡された。両委員会には埼玉新聞社も参加する。

(足立英樹)